



出版クラブ会報
第249号

主な記事

- ▽赤尾好夫さんの死を悼む
 - ▽山小屋を造ってみたら
 - ▽ワープロ教室での発見△出版クラブ研修会△
 - ▽FIPPMアドリッド大会に出席して④
 - ▽つむじ曲りの唄⑨時効・麻雀狂騒曲
 - ▽わが出版界の先駆者に学ぶ(三十六)
 - ▽国機法案と出版人の「初心」
 - ▽出版歳時記△高齢化・出版・地方
- 武内俊三 一
住威久雄 四・五
宮下奈美 五
田中潤 六
中森季雄 七
鈴木省三 八・十
橋本進 十一
草枕 十二

赤尾好夫

旺文社 会長
日本出版クラブ名誉会長
追悼

赤尾好夫氏



赤尾好夫さんの
死を悼む

武内俊三

(たけうち・としぞう)



我が国出版界の偉大な指導者として、四十有余年にわたって業界の発展に尽力された、日本出版クラブ名誉会長赤尾好夫さんがお亡くなりになりました。昨年の野間省一さんに続いて、いま出版界はまたしても惜しみて余りある巨星を失うこととなった。

けではなく、戦後の混乱期に出版界の体制再建に力を注がれたことで、昭和二十年に創設の日本出版協会を整えて自由出版協会を創立、更に全国出版協会へと発展させて、後には日本書籍出版協会の誕生へと導かれた活躍と努力は、まさに特筆すべきものといえる。

赤尾さんといえば、昭和六年の会社創業以来「赤尾の豆單」の出版で広く知られ、戦前戦後を通じて教育部門の代表出版社である旺文社を育て上げた経営手腕が高く評価されているが、赤尾さんの偉大さは単に一社の経営者としてだ

特に、出版界が二つの勢力に分かれて混乱を深めようとした頃、財団法人日本出版クラブの創立を提唱し、業界の大団結を目ざして説得の任に当たり、昭和二十八年九月の発足へとこぎつけられたわけである。

日本出版クラブの創立後は、理事として創成期の難問解決に努め、三十六年からは初代下中弥三郎会長の後を受けて第二代会長に就任、以後五十五年十二月まで、実に十九年の長きにわたって出版界団結のシンボルとして、前進と発展のイニシアチブを執ってこられた。

業に取り組まれたことなど、いずれも赤尾さんならではの経綸の現れということができよう。こうした多年にわたるご功績によって、本年春には勲一等瑞宝章受章という、出版人最高の栄えを受けられたのであるが、当時からお体の具合がすぐれず、その祝賀の会にもご出席いただくことなく、この度の御逝去を迎えられたことは、悲しみてなお余りある痛恨事というほかありません。

偉大であった赤尾さんの後を受け、非才な私が五十五年から第三代会長職を勤めることになったわけであるが、赤尾さんの内外に及ぶ多面的な活躍には到底及ばないまでも、ご遺志を受け継いでその万分之一なりとも果していきたいと念じております。

計報

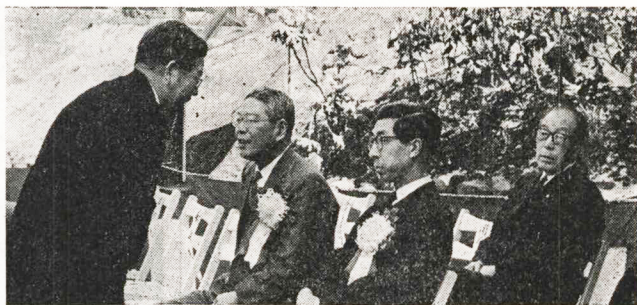
赤尾好夫氏(あかお・よしお)旺文社会長、日本英語教育協会会長、全国朝日放送名誉会長、文化放送会長、日本出版クラブ名誉会長。九月十一日午前八時五分、心不全のため、東京港区の心臓血管研究所で死去。七十八歳。自宅は港区赤坂七の四の一八の六〇一。喪主は長男、一夫(かずお)氏。



読書週間
シンボル・マーク

赤尾好夫氏

写真集より



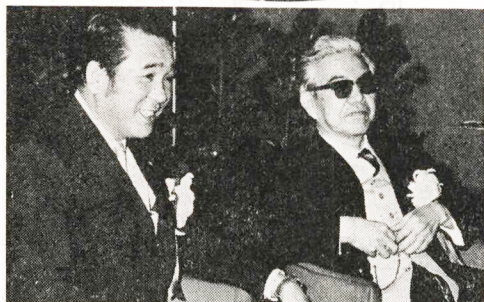
第1回全出版人大会来賓との談笑、池田勇人首相、三笠宮殿下
(37・4・20、椿山荘)



第2回全出版人大会風景、田中角栄氏を迎えて
(38・4・23、椿山荘)



受章者を祝う(左から)鈴木一平、小立鉦四郎、河中俊四郎の各氏
(41・11・30、出版クラブ)



第11回全出版人大会、徳間康快氏と
(47・4・27、椿山荘)

椿山荘で栗田確也氏と(37・4・20)

▲大宅壮一氏の講演を前に、岩崎徹大氏(中央)と三人で(41・6・22、出版クラブ)

▶受章者祝賀会で「やあ、小峰広恵さん」(52・5・23、出版クラブ)



赤尾好夫氏の主な略歴

明治40年3月31日

山梨県石和町に生れる

昭和6年3月 東京外国語学校

(現東京外国語大学)卒業

昭和6年9月「欧文社」創立「通信添削会」を作る

昭和7年10月 会の機関誌として

赤尾氏自ら編集責任者となり

「受験旬報」を創刊

昭和10年「豆單」を刊行、ロングセラーとなる

昭和13年 目白の文化村から牛込横寺町(現本社)へ移転

昭和15年「受験旬報」10月号より「雪雪時代」と改題

昭和17年「欧文社」を「旺文社」と改称

昭和23年 公職追放解除を契機に大飛躍期に入る(22年公職追放)

昭和25年9月 文部省の事業であった英語の通信教育が旺文社の経営に委ねられ、(財)「日本英語教育協会」を設立、会長に就任

昭和28年8月28日 日本出版クラブ設立発起人として参画

昭和28年9月28日 日本出版クラブ理事に就任

昭和29年7月 (株)日本短波放送取締役に就任

昭和30年7月 文部省社会教育審議会委員に就任

昭和31年1月 (社)日本雑誌協会常務理事に就任

昭和31年9月18日 (財)日本出

ありし日の

出版クラブ



▲オリンピック出場の報告講演
(39・10・16、出版クラブ)

新年名刺交換会でエトの話を
する(49・1・7、出版クラブ)



◇赤尾好夫氏の主な褒章

昭和二十六年
日本スポーツ賞受章
昭和二十九年
第三回世界射撃選手権大会(ベネ
ズエラ)で銀メダル獲得
昭和四十二年秋
藍綬褒章受章
昭和五十二年春
勲二等旭日重光章受章



▲「ごらんのとうり元気ですよ、青
木春雄氏の祝賀を受ける(52・5・
23、受章の会 出版クラブ)

「よし、ひと白つこう」
餅つき(44・4・24) 椿山荘で



昭和五十五年八月
ローマ法王より大聖グレゴリオ市
民二等騎士章受章
昭和五十六年
山梨県政特別功績章受章
昭和六十年春
勲一等瑞宝章受章
昭和六十年十月二十四日
政府は従三位に叙することを決定



▲全日空遭難者一周忌追悼(42・2・
2、出版クラブ)

▲全出版人大会懇親会で乾杯、
大島秀一氏と(38・4・23、
椿山荘)



▲新年名刺交換会で(55・1・7、
ホテル・ニューオータニ)

版クラブ副会長に就任
昭和32年3月 (社) 日本書籍出
版協会相談役に就任
昭和32年11月 日本教育テレビ
(現テレビ朝日) 創設、初代社
長に就任
昭和34年 お茶の水に「日本学生
会館」を設立
昭和34年10月28日より日本出版ク
ラブ会長代行
昭和36年1月 (財) 社会通信教
育協会会長に就任
昭和36年4月5日 (財) 日本出
版クラブ会長に就任
昭和38年4月 (財) 日本英語検
定協会理事長に就任
昭和38年10月 文部省教科用図書
検定調査審議会委員に就任
昭和40年3月 (株) 日本教育テレ
ビ(現テレビ朝日) 会長に就任
昭和43年11月 (株) 文化放送会
長に就任
昭和47年9月 (社) 日本民間放
送連盟顧問に就任
昭和55年12月 (財) 日本出版ク
ラブ名誉会長に就任
昭和59年6月 (株) 旺文社会長
に就任